

《口頭発表》

サウンドアーカイブスとしてのテレビ番組

NHK アーカイブス学術利用トライアル研究から

TV program as Sound archives

From NHK archives academic use trial research

小林田鶴子(共栄大学)

Tazuko KOBAYASHI

(キーワード)

サウンドスケープ、サウンドエデュケーション、音の記録、映像と音、音とメディア

要旨

1 NHK アーカイブス学術利用トライアル研究

NHK が蓄積してきた番組数 77 万、ニュース項目 545 万という膨大なアーカイブは、これまで著作権等の「権利処理」や、プライバシーや人権等への配慮から、そのごく一部が『放送ライブラリー』や『番組公開ライブラリー』という形で公開されてきたに過ぎない。そのため、学術研究を目的として、膨大な資料を知の創造に役立てようとの趣旨から、2011 年より試験的に開始されたプロジェクトが NHK アーカイブス学術利用トライアル研究である。

本研究は 2013 年度に小林が研究代表者（共同研究者：鳥越けい子、兼古勝史）として実施したもので、音環境が激変したと考えられる二つの大震災を報道したニュースやドキュメンタリー番組の音の調査（震災前との比較も含む）を行ったものである。

2 番組中の音の観点と実際の番組例

ところで、番組中に現れる音について、録音編集段階で次のような観点を考えることができる。

- (1) 「選ばれた音」と「録音されなかった音」
- (2) 「意図された音」と「偶然に入った音」
- (3) 「録音できなかった音」

実際の番組に於いては、次のような例がある。

- ・阪神淡路大震災発生時の NHK 神戸放送局の自動カメラが捉えた録画録音（1995 年放映）…自動カメラなので、録音録画は意図的ではないが、放送段階に於いて、地震でラックなどが倒れる映像のみを流し、音はカットしたりしているので、警報音が鳴り響く緊迫した状況が放映されていない。
- ・教養セミナー「ふるさとの発見」より「みちのく・新駅誕生の村」（1986 年放映）…三陸鉄道開通時のカルボナード島越駅の様子を放映したもの。駅舎内の喫茶店で町長にインタビューする場面で、高い天井にコーヒーカップ等の音が反響している。こうした音は震災で駅舎が崩壊した現在は聴くことのできない貴重な音であるが、当時の番組では意図していた音ではなく、偶然入った音である。

3 サウンドエデュケーションに向けて

音は、テレビ番組に於いては映像の付属物という位置付けになることが多かったが、我々の周りの世界は音と映像は別物ではないので、当然音にも意識を払わなければならない。また、「番組中の音の観点」はサウンドエデュケーションでも取り入れることができる。特に「偶然入った音」の中に新しい意味付けができる場合もあり、「音発見」や「音探索」はこうしたやり方も可能ではないかと考えられる。